

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「知徳・仁愛・高志」のもと、生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。 阜が丘での学校生活を通じて、生徒が多様な進路を実現できるよう、個別最適化された指導により、以下の力を育みます。 ・基礎的・基本的な知識・技能を習得し活用する力、他者を思いやることのできる豊かな人間性と社会性 ・生活を豊かにすべく習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し解決するための思考力・判断力・表現力 ・国際化した社会において、地球的視野で考え、地元を支え地域の発展に貢献できるグローバルな力
--

2 中期的目標

将来への選択肢を広げられる基盤を築くとともに、国際的な視野と地域・社会への貢献力の育成により、充実した未来へ繋げるため、次の3項目を中期的目標とする。

1確かな学力の定着と学びの進化

(1)教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

ア基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させるとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育む。

イ「魅力的な授業・わかる授業」から「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

(2)自学自習する力を育む。

ア家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。

イ読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3)進路指導の充実に取り組む。

ア3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。

イ模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

授業満足度	R10年度には85%以上を維持	(R588% R686% R787%)
授業以外の学習1時間以上	R10年度には55%以上をめざす	(R538% R633% R727%)
進路指導に対する肯定率	R10年度には85%以上を維持	(R590% R693% R793%)
学力診断テストにおける学力評価(2年次のCゾーン以上の維持)		(R577% R663% R756%)
難関・中堅私立大学への進学者数20名以上をめざす	(R519名 R621名 R718名)	
(関関同立・産近甲龍・関西外・佛教)		

2豊かな人間性の涵養

(1)学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

ア体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。

イ地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に取り組み、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

※部活動加入率R10年度には70%をめざす(R556.7% R655.7% R753.4%)

(2)学校生活における規律を身につけさせる。

ア遅刻指導等の生徒指導を全校体制で行い、時間や規則を守る意識を育む。

イ登下校時や校内で元気よく挨拶を行い、互いを思いやる意識を高める。

ウ道路交通法(努力義務を含む)の順守について、定期的な安全指導を行い、自分の身を守るとともに、他の道路利用者を思いやる意識を高める。

エ清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

※遅刻者数R10年度には1,500人以下をめざす(R51,582人 R62,300人 R71,613人)

※美化に関する教員および生徒意識の向上(学校教育自己診断美化に関する項目の肯定率80%以上)(教員R522% R622% R733%)

(3)総合的に人権教育を推進することにより、個性を理解し、互いを尊重し、差別やいじめを許さない人間性を育む。

アすべての教育活動(授業、特別活動等)において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心を育成する。

イ3年間を見通した人権教育計画を策定し、すべての人が等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。

(4)生徒支援体制を充実し、誰ひとり取りこぼさない教育環境を維持する。

ア担任、学年担当による生徒とのコミュニケーションや行動観察から支援の必要な生徒には、担任(部顧問)・学年主任、養護教諭等を中心として教職員が連携し、速やかに対応する。

イ生徒相談委員会にて情報を共有し、生徒個々に対する適切な支援策は、生徒支援委員会を中心に検討し、学校全体で組織的に進める。

ウスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、生徒が相談しやすい良好な関係づくりを模索するとともに、教育相談力の向上に努める。

3活力ある学校づくり

(1)教育内容を一層充実させる。

ア国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。

イ英語アドバンスト専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。

理数アドバンスト専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身につけさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2)学校教育活動の積極的な情報発信を行う。

ア学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。

※学校説明会理解度R10年度には90%以上を維持(R599.8% R699.7% R7100%)

イWebページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。

(3)働き方改革

ア業務の統合や会議の効率化などを図り、生徒と向き合う時間や教材研究の時間確保に努める。

イ分掌、各種委員会、PTの組織及び個々の業務内容の見直しを図り、組織改変を含め、職員の働き方改革(45時間／月を意識する)を進める。

ウストレスチェック職場評価改善総合リスクに関する指標全国平均(100)を下回る。(R594 R690 R790)

エ部活動方針を遵守し、適切な休養日等の設定と部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。

(4)危機管理体制を充実させる。

ア運営委員の連絡網(SNS)を活用し、事案が発生した場合の報告・連絡・相談を早期に実施する危機管理体制を運用する。

イ学校保健・安全指導・衛生管理に関する指導を徹底し、事故防止に努める。

ウいじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組むなど教育相談体制の充実を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 定 着 と 学 び の 進 化	（１）教科指導の充実 ア ICT を活用した継続的な授業改善 イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現	（１） ア 授業理解度の把握、毎時の振返、個別の課題設定等により、定期考査ごとに１回以上の課題を設定する。また、日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 イ 取組の校内での共有を進めるために、初任者研修に併せて研究授業を開催し、研究協議を行う。また、パフォーマンス課題の設定、評価の基準・方法等の実践事例をクラウドストレージで共有する。	（１） ア 授業満足度 85%以上維持 [86%] ・授業見学 2.5 回以上/人 [2 /人] イ 実践事例の報告を [1 回以上/学期] ・学校教育自己診断(教員)における「学習形態等の工夫を行った」自己評価 85%以上 [86%]	
	（２）自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 基礎・基本の学び直しの場づくり ウ 読書活動の推進 エ 資格取得の奨励 （３）進路指導の充実 ア ３年間を見通した進路指導	（２） ア 適切に宿題・課題を出し(特に各教科で課題のオンライン配信に(2 回/学期)以上)取り組ませることにより、家庭学習を習慣づける。 イ 自習室等を整備し、自学自習できる環境を充実させる。 ウ 授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 エ 各種検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力をつける。 （３） ア LP(総合的な探究の時間)の充実 1 年次「職業理解」、2 年次「上級学校理解」、3 年次「進路実現」の目標に沿い、高校 3 年次に成年を迎える生徒に、責任のある選択ができるよう、3 年間を見通した計画・プログラム(LP 計画)の検討を行う。また、課題探究・発表を通じて社会貢献意識を醸成する。	（２） ア 授業以外の学習 1 時間以上の生徒 40%以上 [27%] イ 自習室活用のべ人数 200 人以上 [370 人] ウ 図書館利用率 80%以上 [90%] エ 英語検定・漢字検定(準 2 級)以上合格者 各検定 15 人以上 英語検定 [3 人] 漢字検定 [13 人] （３） ア 進路指導に対する肯定率 85%以上を維持 [93%]	
2 豊 か な 人 間 性 の 涵 養	（１）協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭・文化祭等の学校行事の充実 イ 地域貢献 （２）生活規律の確立 ア 時間・規則を守る意識の醸成	（１） ア 体育祭や文化祭、HR 活動を通じて、リーダーを育成するとともに、リーダー中心に生徒が主体的に考え行動する力を育む。部活動を通じて、自己肯定感を高められるよう充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 イ 地域の奉仕活動及び交流活動(地域清掃、SGS(ｽｸｰﾙｶﾞｰﾄﾞｻﾎﾟｰﾀｰ)、中学生との部活動交流、地域活動への参加等)により、社会に貢献する力を育む。 （２） ア 生徒の規範意識醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・毎朝の校門指導や事後指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。	（１） ア 体育祭満足度 90% 以上[95%] 文化祭満足度 85% 以上[90%] 部活動加入率 65% 以上[53. 4%] イ SGS は 各学期 1 回以上 6 回参加 [15 回] （２） ア 生徒指導週間(1 回/月)時に身だしなみ等の重点指導を行う。 ・遅刻者数 前年度約 30%減をめざす [1, 613 人]	

府立北かわち阜が丘学校

	イ 挨拶運動、他者を思いやる意識の高揚 ウ 交通マナーの啓発と安全指導(定期)を行い、身を守るための行動意識、とりわけ、他の道路利用者を思いやる意識の高揚を図る。 エ 清掃指導を徹底し、環境美化に努めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。 (3) 総合的に人権教育を推進 ア 多様性を理解するために、人権や命に関して考える機会を設け、高い人権感覚を身につける。 イ 高校3年間で計画的に人権について学べる機会を設け、すべての教育活動の場面で、協同的な活動ができるようにする。 (4) 生徒支援体制を充実し、誰ひとり取りこぼさない教育環境を維持 ア 生徒相談委員会での情報共有 イ 生徒個別の支援計画策定 ウ SC や SSW を活用した教育相談力の向上に努める。	イ 朝の挨拶運動(校内)を定期的に開催し挨拶の輪を広げる取組を行う。 ウ 定期的な校外巡回や保護者、地元警察等、地域と連携した登下校時指導を行い、自転車通学における安全確保と大人が見守ることでマナー向上に繋げる。 エ 毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。学校全体の美化意識を高めるために、落ち葉の清掃や花壇の整備などに取組む。 (3) ア 個性を理解し、互いを尊重し、差別やいじめを許さない人間性を育む。 イ 3年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。また、すべての教育活動(授業、特別活動等)において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心を育成する。 (4) ア 担任、学年担当による生徒とのコミュニケーションや行動観察から、支援の必要な生徒には、担任(部顧問)・学年主任、支援委員長、SC 担当、SSW 担当、養護教諭、保健主事、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを中心として教職員が連携し、速やかに対応する。(生徒相談委員会を週1回開催) イ 適宜、生徒支援委員会・ケース会議を開催し、生徒個々に対する適切な支援策を検討、学校全体で状況を共有する。 ウ SC や SSW を活用し、生徒が相談しやすい良好な関係づくりを模索するとともに、教育相談力の向上を図る。	イ 挨拶運動の実施と日常から挨拶を含む声かけを継続的に実施できたか。 [25 回] ウ 交通安全指導・意見交換会を年3回以上実施する。 [3 回] 地元警察、ドライビングスクールとの共同活動 [1 回以上/年] エ 学校教育自己診断(教員)における「清掃が行き届いている」の肯定的評価 50% 以上 [62%] 学校教育自己診断(生徒の校内美化に関する項目)における肯定的評価 80% 以上 [91%] (3) ア 学校教育自己診断(生徒)における以下の項目の肯定的回答 『命の大切さを学ぶ機会』80% 以上 [94%] イ『人権について学ぶ機会』80% 以上 [96%] (4) ア 生徒相談委員会を毎週1回開催。[1 回/週] イ 学校教育自己診断(生徒)における『担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる』の肯定的回答 70% 以上 [83%] ウ SC・SSW による面談をそれぞれ月に1回以上実施。また、教員向け事例研修も開催。 ・高校生活アンケートを実施し、生徒状況を把握し、必要に応じて SSW と連携し、家庭と行政との橋渡しを円滑に行う。 [SC 面談 14 回、SSW 面談 10 回、教員研修 1 回]	
3 活 力 あ る 学 校 づ く り	(1) 教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 各アドバンスト専門コースの充実 (2) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Web ページ等による情報発信	(1) ア 海外姉妹校との Web 会議と本校での交流を行う。 イ 高大連携事業(関西外国語大学)のインターンシップ制度(留学生の受入)を活用し、授業への入り込み、English Cafe の充実により、英語に触れる機会を増やし、英語活用能力を向上させる。 ・実験を通した科学的探究能力・プレゼン力の育成 (2) ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の更なる充実を図る。学校紹介パンフレットは最新のデータに時点修正し、在校生の声を入れる等の更新をする。また、随時見学を受け入れ、本校に興味を抱く中学生を支援する。 イ Web ページ、携帯連絡網等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。	(1) ア 海外の高校と Web 会議(交流)3回以上/年 [0 回] 本校での交流 1 回/年 [0 回] イ インターンシップを希望する学生を受入れ、授業や特別活動において対話の機会を増やす。 アンケート(独自)により当該授業の肯定的回答 80% 以上 [90%] ・各アドバンスト専門コース生による探究発表会の実施 [0 回] (2) ア 情報連絡ツールの阜メール配信を2(回/月)以上 [25 回/年] ・学校説明会参加者に対する理解度アンケートの肯定的回答 90% 以上 [100%] イ Web ページ更新 200 回以上 [206 回]	

府立北かわち阜が丘学校

(3) 働き方改革 ア 業務統合及び会議の効率化等、生徒と向き合う時間や教材研究の時間確保 イ 分掌、各種 PT の組織・構成の改変による業務の効率化 ウ ストレスチェック結果の効果的な活用 エ 部活動方針の遵守及び一斉退庁日の実践 (4) 危機管理体制の充実 ア 教員間の緊急時連絡網の構築・運用 イ 学校保健・安全指導・衛生管理に関する指導を徹底し、事故防止に努める。 ウ いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組むなど体制の充実を図る。	(3) ア クラウドストレージへの資料掲載、職員会議のペーパーレス化、施設利用簿(電子)共有、及び会議時間のさらなる短縮を図る。 イ 分掌、各種 PT の組織・構成の見直しにより校務分担を再編し、業務の効率化を検討する。 ウ ストレスチェックの結果に基づき、面談等を行い、職場の健康リスクの把握と改善を図る。 エ 部活動方針を遵守し、部活動指導時間等の見直しと全校一斉定時退庁日の遵守を推進する。 (4) ア 運営委員のメーリングリスト(SNS)を活用し、緊急事案が発生した場合、対処策を他の教職員・生徒・保護者へ速やかに伝達できる仕組みを構築し、運用する。 イ 教職員の救急講習会全員参加。 ・防災教育の取組みとして学校支援クラウドサービスを活用する。 ウ いじめの未然防止・早期発見・早期解決のため組織的な対応を図る	(3) ア セキュアな情報以外のクラウドストレージでの共有 100% 施設利用簿のオンライン運用 100% イ 学校教育自己診断(教員)における『教育活動に関する教員の話し合う機会』の肯定的回答 70%以上 [63%] ウ ストレス度合いの判定にもとづく職場の健康リスク指標全国平均(100)以下 [90] エ 全校一斉退庁日の実施割合 90%以上 ・年間超過勤務時間 720 時間をゼロにする。[0 人] (4) ア 緊急連絡体制の整備状況 ・情報連絡ツールの阜メール(保護者)の登録 100% [98%] イ 教職員の救急講習会参加 100% [100%] ・避難訓練に加えて、学習支援クラウドサービスを活用した防災教育の取り組みを実施する。 ウ 学校教育自己診断(教員)における『いじめ対応体制、及び迅速な対応』の肯定的回答 80%以上 [73%]	
--	--	---	--